

令和6年度「学生と学長との対話－学生交流会－」概要

11月27日、「令和6年度 学生と学長との対話－学生交流会－」を学生21名と学長や理事ら教員5名が参加の下、五福キャンパスで開催しました。この交流会は、学生と学長が対話を深め、学生の意見を大学運営に反映し本学の教育の質向上を図ることを目的に毎年企画・実施しているものです。

今年度は、①グローバル教育、②地域の企業や自治体と連携した教育、③学部横断型教育、④アクティブラーニング教育の4つのテーマについて、グループディスカッションを行いました。

その後、『ワクワク感を後押しする教育とは?』という視点で、富山大学の教育・学生支援の現状や今後目指す姿について、テーマ毎に発表を行いました。学生の発表に対して、学長からは、これからの社会で求められる人材像とそれに応えるための本学での教育活動、本学がさらに充実させること目指している海外留学促進に向けた施策の検討状況等についての説明があり、活発な意見交換が行われました。

学生から発表があったテーマ毎の提言や課題、本学に期待する点は以下のとおりです。

グローバル教育

■意見交換の内容（本学に期待する点）

- ・異文化理解の促進のためにも、日本人学生と外国人留学生と交流する機会が増えるといい。
- ・グループワークや交流イベント等、国籍・文化の垣根を越えた交流の場があると、授業で教えられる日本語だけでなく、学生が話すような生きた日本語にもっと触れることができてよいのではないか。
- ・外国人留学生向けのイベントに参加するメンバーが固定化されており、少し入りづらい雰囲気があるため、様々な外国人留学生が参加しやすいイベントになればよい。
- ・留学へのハードルが高く身近に感じていない学生もいる。また、金銭的な負担も大きいため、留学費用等の金銭的な面での補助があれば嬉しい。

■学長のコメント



海外に行って勉強したり、何かを経験したりすることはプラスになると考えています。令和6年度には、海外留学を促進するための予算を措置したので、学生の皆さんにはぜひ海外留学にチャレンジして欲しいです。

地域連携教育

■意見交換の内容（本学に期待する点）

- ・地域連携授業の実施方法や内容に学部間で格差があるように感じるため、もう少し学部間で地域連携授業の均等化・均質化されるとよいのではないか。
- ・地域の企業の人と一緒に何かを作ったり、企業の方々と交流やディスカッションしたりするような授業があるとよいのではないか。
- ・教養教育以外では3キャンパスの学生と一緒に授業を受けられる機会が少ないと感じている。大学のキャンパス外でもいいので、協働で何かを行えるような機会があればよいのではないか。

■学長のコメント



これからは誰であっても自由に議論できるような大学にしたいと思っています。ぜひ、地域の皆さんにも大学に来ていただき、産学官金民の活動に参加していただきたいと考えています。また、キャンパス移動が必要な授業には移動のための予算も措置していますし、令和6年度からは試行的にカーシェアリングの導入を実施予定としています。

学部横断型教育

■意見交換の内容（本学に期待する点）

- ・「全学横断PBL」授業において、複数の学部からなるグループ編成ができないことがあるため、様々な学部（分野）の学生と共に学修できるような環境となればよい。
- ・低学年の段階で、コミュニケーション、プレゼンテーションのスキル、デザインといった共通的なスキルを授業に取込み、それらをPBL授業に生かすといった流れがあると、学生にとって魅力的になるのではないかと。

■学長のコメント



複雑化する地域課題の解決のためには、専門人材の多職種連携が求められているため、スペシャリストを目指して勉強に励んで欲しいです。

学部3年次の段階では、まだ不十分かもしれませんが、そのトレーニングとして皆さんがスペシャリストになったつもりで、ぜひPBL授業において議論をしてほしいと考えています。

アクティブラーニング教育

■意見交換の内容（本学に期待する点）

- ・ ミニッツペーパーやコメントシートの形式だけでは対話や双方向性に欠けるように感じたため、授業の中での体験活動、特に実際に現場で触れ合って学ぶような体験があれば魅力的である。
- ・ 能動的な学習環境や仕掛けが不足している印象があるため、適切な人数設定や責任感を与えるジグソー法の導入や ICT 機器の活用等、能動的に学ばせる仕掛けがあるとういのではないかな。

■学長のコメント



体験学習の導入や適切な人数設定については比較的できていると思いますが、ICT 機器を活用した能動的な学習環境の整備は、積極的に取り入れていきたいと考えています。全てアクティブラーニングにすると、学生間で学修成果に差が生じてしまう可能性があるため、双方向性と一方向性のバランスは、教える側も学ぶ側もどちらも吟味して、真剣に考える必要があるのかなと思います。

まとめ

今回の「学生と学長との対話」で得られた各テーマの提言は以下のとおりです。

<グローバル教育>

外国人留学生との交流や留学の機会等をとおして感じた、異文化理解の重要性、グローバルにチャレンジするワクワク感を、他の学生にも広めたい。

<地域連携教育>

地域の企業や自治体の方と関わる授業で感じた能動的な授業の楽しさをもっと他の学部にも広めたい。

<学部横断型教育>

様々な学部の学生と PBL（問題解決型学習）で共に学び、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、デザイン思考を身につけたい。

<アクティブラーニング教育>

本学のアクティブラーニングをより能動的で活発な授業にしたい。

本学では「データサイエンス教育」「アクティブラーニング」「英語教育」を教育の3本柱として推進しています。今回の意見交換の内容を踏まえて、この教育の3本柱の更なる充実・質向上に向けて取り組んでまいります。